

「……え？ 私達を彼女にしたい……？
あゝ…… いやゝごめんなさい！ そういうの間に合ってます！」
(なんか凄い人來ちやつたな……)

(うわゝ……ずっと五十嵐たちのおっぱい見てる…… 全然、目あわないし……)





「あ…」

「え？」

「ちゅ♡ちゅ♡♡」

……っふはっ♡♡

お射精お疲れ様〜♡

れろれろれろゝ♡♡

ね〜♡ね〜♡どうだった？
私もっと ア〇ル舐めパイズリ上手になりたいから
色々教えて欲しいな〜♡♡」



「おはよう♡ダーリン♡」

朝の性処理しに来たよう♡♡♡」

「朝起きたらまずはい…」

『ダーリン専用デカパイ♡♡』

使って朝立ち処理だよね♡♡♡」



「ね♡ダーリン♡
五十嵐もアール紙めパイズリしたあり♡」

「……え？」

「まずは倉持を一流の
パイズリマスターに
してから…」

「だから五十嵐はデカパイ抱き枕
に専念してろ」……？」

「……♡♡
りょーかい♡」

「五十嵐いゝ、ダーリンの事を
癒せるデカパイ抱き枕になる♡」

「だから、今度絶対に パイズリ させてね♡」















